

# 願成寺報

令和四年九月十三日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

## ■ 秋季彼岸・永代経のご案内

コロナ禍ですが、感染対策をして勤めます。

- ・ 出入口と窓を開けて換気します
- ・ お参りの際はマスクの着用を願います
- ・ 堂内三〇名の人数制限をします

事前にご連絡下されば席を用意します

- ・ お斎（昼食）は残念ですが中止します

午前・午後共のお参りで

昼食にお困りの方はご相談下さい

春季と同様に、しっかり勤めてまいります。



## 「光明」とは何か

遺影は自分の心を映す鏡だと思ふ。

ただカシコまつているだけの写真なのに、こちらに疚しいことがあると叱られる。その動かぬ姿が、私の悲しみを共に悲しんでくれて、微笑みで励ましてくれる。

だから、絶望や迷いの時は、その顔が笑顔や微笑みになるまで対話を続けよう。

たとえ意見や生き方の違いがあつた故人でも、いずれ迷い人である。

「迷い」を前提とした対話なら、仲間だし、共感し合える地平が開かれるはずだ。

その人に、「ガンバレ」の微笑みを見つけたら、きっと私も笑顔になっていて、

次の一步を踏み出せる。

この苦難を介して伝わる笑顔こそ、仏の光明だし功德の全てなのだと思う。

この光明に照らされることを生きることの第一義とすれば、

苦難の縁も福と転じられてくる。

全てのいのちが輝くことを願われている。

その願いに領いたなら、自身が輝くことよりも、他の輝きを探すようにしたい。

見つかれば自身も輝く。

それが化仏の姿なのだろう。

今、此処、私が化仏の輝きに照らされている。

そういう感覚が真実信心なのだと思う。

その感覚の時、私も化仏に褒められて、化仏の仲間になっているのだろう。

遺影でなくても、有縁でなくても、特に真っ暗闇だと感じた時、

そんな対話をする必要がある。

無碍光佛ノヒカリニハ 無数の阿弥陀マシマシテ

化佛オノオノコトゴトク 真実信心ヲマモルナリ

《現世利益和讃・親鸞聖人》

九月 廿二日 木 午前十時 餅つき草取り会 中止

九月 二十四日 (土) 午後一時半 法要のみ

二十五日 (日) 午前十時 法要・法話

お斎(昼食)

午後一時 法要・法話

法話 浄泉寺(岡崎市)

住職 戸田恵信師

## ● 阿弥陀経ノート ⑥・正宗分・讚極樂・正報莊嚴

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

舍利弗、汝が意に於て云何。彼の仏を何が故ぞ阿弥陀と号する。

舍利弗、彼の仏の光明は無量にして、十方の国を照らすに障礙する所なし、この故に号して阿弥陀と為す。

また舍利弗、彼の仏の寿命、及びその人民も、無量無辺阿僧祇劫なり、故に阿弥陀と名づく。舍利弗、阿弥陀仏、成仏已来、今に十劫なり。

また舍利弗、彼の仏に無量無辺の声聞の弟子あり、皆阿羅漢なり。これ算数の能く知る所に非ず。諸の菩薩衆も、またまた是の如し。

舍利弗、彼の仏の国土には、是の如きの功德莊嚴を成就せり。

〈仏説阿弥陀経・書き下し〉

・阿弥陀

無量の意 〓衆生の認識を超える程の数または大きさ  
衆生などを仏と育て 仏を仏たらしめる根本のはたらき

・光明

はたらきに領いた衆生等を化仏と輝かせる光  
衆生等に伝播していく阿弥陀仏の知恵

・障礙

さえぎるもの 〓障害物や障害となる条件  
衆生等を仏に育てようとはたらいてきた歴史

・寿命

衆生等に寄り添い続ける阿弥陀仏の慈悲  
阿弥陀仏の慈悲(名)と智慧(号)により救われていく仲間達

・人民

無料無辺： 暗い宇宙に数限りなく満ち溢れている様  
十劫 そののはたらきを疑うことが出来なくなる程の長い時間

・声聞の弟子

阿弥陀のはたらきに遇って その完全性を讃える仲間達  
他の仲間から尊敬を集めて供養を受けるに相応しい仲間

・阿羅漢

阿弥陀のはたらきに遇って その実効性を讃える仲間達  
菩薩

・世界の姿と私

希に私と私を取り巻く世界が輝いて見えていることがある。天然色の中で生まれた意味を謳歌する。けれどそんな時も、その外側の世界は迷いと悲劇に溢れている。その暗黒に飲み込まれる不安や、対処のしようがない絶望感が常にある。神とか仏が在るとしたら、いったい何処におられるのだろう。

・夜空に輝く星々

星の輝きは仄か過ぎて日中には見えない。夜空でも雲に隠れて見えないこともある。視力など感受性の問題もあるが、見えても見えなくても無量の星々が私を囲み輝いている。その事実を手懸かりに歩む道を定めればよい。暗黒の不安や絶望の中だからこそ、希望の星が必ず見つかる。私を囲む星々の数は無量なのだから。見つかったら、その星のように輝けばよい。輝きは他者を照らす光であって、その輝きを自覚する必要はないし、その光が誰かに届くかどうかとも心配しなくてよい。その受照者も無量なのである。

・「私」を開く

私の願いを基準にすると、叶うことが少なく絶望の宇宙と感じる。良く生きようとするほど闇は深くなる。しかし、この宇宙は仏の願いで満たされていると仮定してみよう。すると「無碍光」によって、自他の境を超えることができる。「無量寿」で生死の境を超える。「私」の殻が破れて宇宙が私になっていく。迷いの中で、だからこそ出遇える仲間達。その励ましの声が聞こえて「ありがとう(南無阿弥陀仏)」と発すれば、其処はもう目的地なのかも知れない。励ましの声は仏の願いだ。その願いを基準に私の願いを生きていくのなら、絶望の宇宙と感ずることはもうなくなっている筈だ。

声聞の弟子であり大阿羅漢でもある舍利弗は、念仏の十劫の歴史に思いを馳せながら、絶望の中に希望を見出す道を、他を導く菩薩道として歩もうと決心したのに違いない。



行事予定 令和四年秋以降

九月二十五日（日） 秋季彼岸・永代経法会（戸田恵信師）

お馴染みの先生の情熱的な法話です  
お非時（昼食）なし  
午前十時～

十月 八日（土） 先代住職二十三忌・先代坊守七忌法要

近隣のご寺院様とさきやかに勤めます  
午後四時～

十一月 三日（木・祝） 本山納骨堂法会・団体参拝

コロナ禍の見通しが立たず中止しました

十二月 三日（土） 報恩講

御開山聖人御恩に報いる法会です

お非時（昼食）中止の場合あり

土曜日 午後一時半から

日曜日 午前十時から

毎月一日

月例会

午後二時～ 時間変更の場合等あります、

寺までご確認下さい

先代住職・先代坊守 年忌法要 十月八日（土） 午後四時～

先代住職は六十九歳で亡くなり 二十三回忌です

先代坊守は八十二歳で亡くなり 七回忌（一年遅れ）です

お世話になった方々にお参り頂ければ幸いです

ご仏前等のご心配は無用とし 平服にてお参り下さい

遅い時間で恐縮ですが 一時間程勤めます

本山納骨堂・納骨受付／お参り／仏間読経は予約制

本山もコロナ対策中です

参拝ご予定の方は本山または願成寺までご相談下さい



後記

○ 事件は突然やってくる

お盆のお参りで忙しい八月十四日の午前、柳生橋の踏切にさしかかった。前の車が通過し、アクセルを踏もうとした瞬間、「カンカン」と警報が二回鳴った。少し躊躇したが、何本も列車が通る可能性があり、行くことにした。無事に通過して少し走ったところで「ウー」とサイレンが鳴った。「私ではない」と思ったかった。後方はカーブしておりパトカーの姿はない。「逃げられる」とも思ったが、善市民である。一応ハザードを出して道脇に停まった。案の定、パトカーは私の後ろで停まり、警察官が来る。忙しいのにメンドクサイことになってしまった。

「遮断踏切立ち入り違反です、気を付けて下さい」優しい口ぶりに逆に憤りを感じた。まだ遮断されてなかったじゃないか！

一万二千円の切符が作成される長い待ち時間の間、父のことを思い出していた。私が、やはりお盆に、駐車違反で捕まった報告をした時、父は捕まらなかった話をした。

「僕は許してもらったぞ」と自慢げに話した。カブで走っている時、何かの違反をしたようだ。パトカーの中に入れて、中年と若い警察官の口論を聞いていたと云う。若い警察官は「坊さんは手本になるべき職業だ、違反は許されない」「だがお盆だぞ、坊さんを捕まえると縁起が悪い」等と。結局、きついお叱りを受けたのみで放免されたようだ。

○ 懐かしさが笑顔をつくる

懐かしい昭和の時代のエピソードである。私は、その切符を持つてくる警察官が父親に見えた：は、云い過ぎだが、「安全第二」と「法令順守」を肝に銘じて、笑顔でそれを受け取った。警察官には不気味だったかも知れない。申し訳ない。

○ 伝承が大事

避けられない災難（この場合は違うかも）は、受け止めなければならぬ。そこに笑顔をもたらすために、それぞれの経験を伝承し合っておくことは大切だと思う。恥ずかしいけれど記しておく。